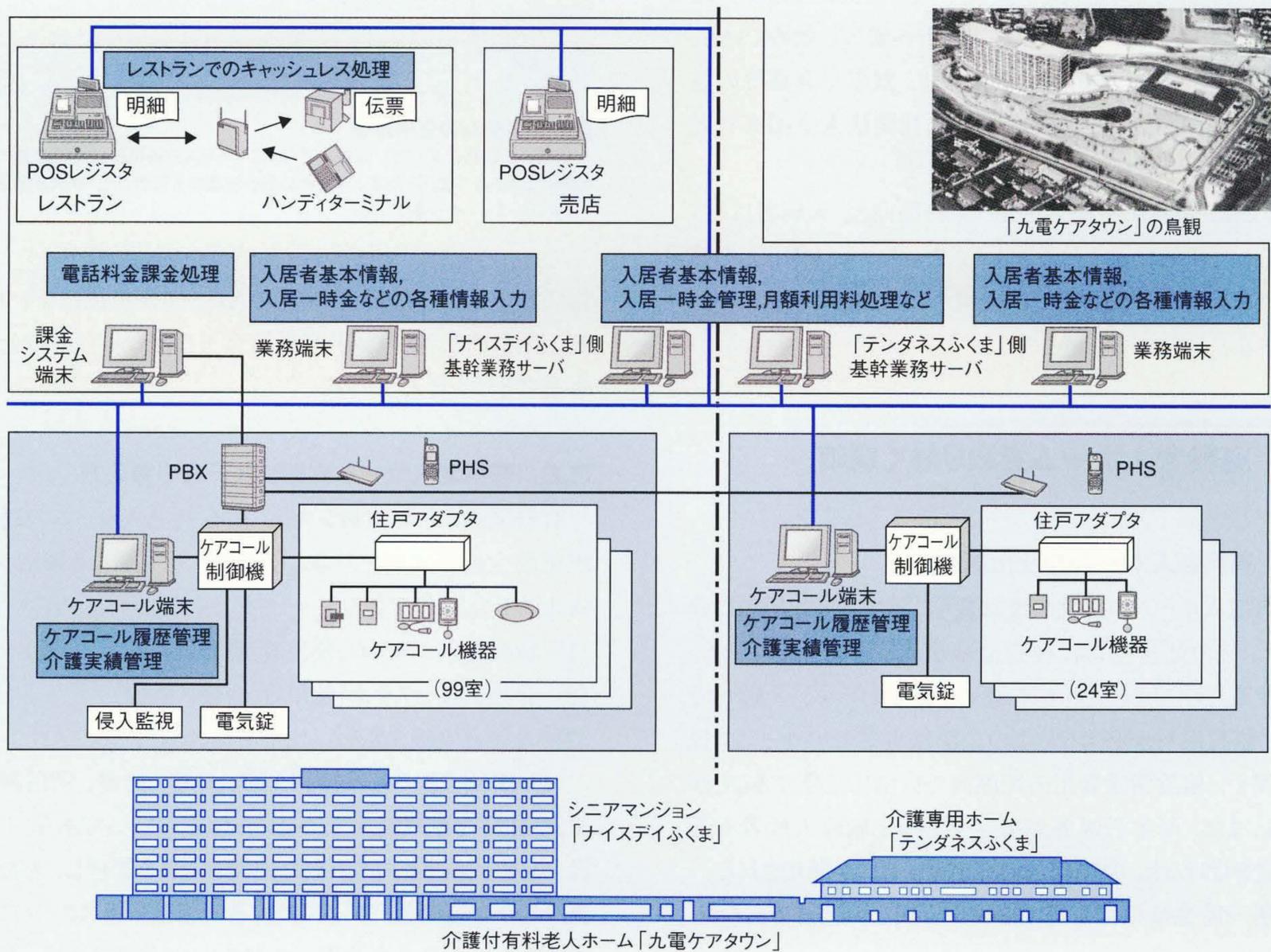


# 安心して快適に過ごせる 有料老人ホーム支援システム 株式会社キューデン・グッドライフ「九電ケアタウン」への納入事例

## Computer Information Systems for Care Services at Retirement Homes

江龍 康雄 Yasuo Eryû 永山 勉 Tsutomu Nagayama



注1: (情報管理システム), (介護支援システム)

注2: 略語説明

POS(Point of Sale), PBX(Private Branch Exchange), PHS(Personal Handyphone System)

### 「九電ケアタウン」納め有料老人ホーム支援システムの概要

「九電ケアタウン」は、元気な高齢者を入居対象とする「ナイスデイふくま」と、介護が必要な高齢者を入居対象とする「テンダネスふくま」から成る複合施設である。「九電ケアタウン」に納入した有料老人ホーム支援システムは、事務員、介護スタッフ、入居者、家族へ快適な環境を提供することを主目的としている。入居者に関する情報を双方の施設間で一元管理しており、介護が必要になった場合には、「ナイスデイふくま」から「テンダネスふくま」への住み替えがスムーズに行える。

急速な高齢化に伴い、高齢者が暮らしやすい施設や住宅の整備が急がれている。政府は介護保険施設の設置目標を定めているが、都市部ではその数が不足しており、民間企業が有料老人ホーム事業へ参入する例も増加している。

このような背景から、九州電力株式会社と株式会社キューデンは、新規事業の展開と遊休地の活用を目的に株式会社キューデン・グッドライフを設立し、有料

老人ホーム事業に参入した。日立製作所は、自社運営の介護老人保健施設などで得たノウハウを活用し、株式会社キューデンと共同で有料老人ホーム支援システムを開発した。このシステムは、事務員には事務処理の効率化を、介護スタッフには入居者への生活・介護サービスの充実化を、そして入居者には安心・安全・快適をもたらすものであり、株式会社キューデン・グッドライフ「九電ケアタウン」で活用されている。

# 1 はじめに

わが国の高齢化率は、2003年に18.5%、2025年には28.7%に達する見込みである。このため、政府は、2004年までの介護保険施設の設置計画として「ゴールドプラン21」を策定し、介護老人保健施設、介護老人福祉施設などの設置目標を定めた。しかし、都市部では、土地代、建設場所などの問題で介護保険施設の絶対数が不足している。そのため、電力会社などの民間企業が、新規事業の展開と自社遊休地の活用を目的に、有料老人ホーム事業へ参入し始めている。有料老人ホームは「高齢者に配慮され、食事や介護等の各種のサービス機能が付いたマンション(社団法人全国有料老人ホーム協会)」である。

ここでは、最近の有料老人ホームの動向と、入居者にとって安心して快適に過ごせるシステムをいち早く具体化した株式会社キューデン・グッドライフ「九電ケアタウン」の事例について述べる。

## 2 有料老人ホームを取り巻く環境

### 2.1 有料老人ホームの最近の動向

有料老人ホームの施設類型は表1に示すように3種類に分けられ、その運営主体は社会福祉法人と民間企業である。入居するためには施設類型の違いにかかわらず、入居一時金と月額利用料が必要で、この金額は事業者のサービス提供範囲や、施設建設費用の範囲内で自由に設定することができる。また、厚生労働省が指定する特定施設入所者介護の指定を受けると、介護保険の在宅サービスが適用される。

入居一時金は数百万円から数千万円とさまざまであるが、

表1 有料老人ホームの施設類型

有料老人ホームでは、施設類型、居住の入居形態、個室、相部屋、介護に従事する職員体制、入居時の要件などを入居者に提示することが義務づけられている。

施設類型	類型の説明
介護付有料老人ホーム	介護や食事などのサービスの付いた高齢者用の居住施設で、介護が必要となっても、その有料老人ホームの居室で生活を継続することができる(特定施設入所者生活介護の指定を受けていない有料老人ホームについては、介護付と表示することができない)。
住宅型有料老人ホーム	食事などのサービスが付いた高齢者用の居住施設で、介護が必要となった場合、訪問介護などの介護サービスを利用しながらその有料老人ホームの居室での生活を継続することができる。
健康型有料老人ホーム	食事などのサービスが付いた高齢者用の居住施設で、介護が必要となった場合には、契約を解除し、退去しなければならない。

出典:有料老人ホーム設置運営標準指導指針

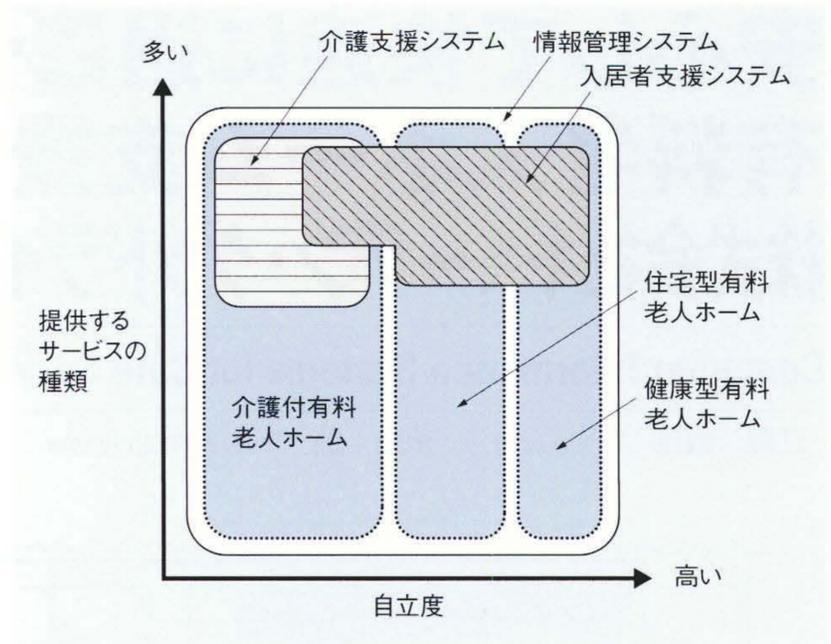


図1 システムの適用範囲

横軸に入居者の自立度、縦軸に提供するサービスの種類とした場合での、ニーズの高いシステムの範囲を示す。自立性の高い健康な入居者ほど、快適な生活を楽しむためのシステムが必要となる。

施設類型として介護付き有料老人ホームが主流になりつつある。最近では、電力会社や鉄道会社など、大手民間企業が事業者として参入している。

### 2.2 有料老人ホーム支援システムの考え方

有料老人ホーム支援システムは有料老人ホームの運営管理業務全般の支援を対象としており、必要となる個別システムは以下のとおりである。

- (1) 情報管理システム(使用者:事務員)
- (2) 介護支援システム(使用者:介護スタッフ)
- (3) 入居者支援システム(使用者:入居者)

(1)は入居者の基本情報管理、経理、財務、利用料金請求、および介護報酬請求に用いられるシステムである。(2)では、入居者の生活リズムや介護実績などを管理し、おむつ交換などの介護のタイミングに関する情報を介護スタッフに提供するほか、施設の情報開示などのリスク管理を行う。(3)は入居者の生活を支援するためのシステムであり、日々の生活の楽しみや施設内で発生する各種手続きの効率化を支援する。

入居者の自立度と、提供するサービスの種類を軸としたときの個別システムの適用範囲を図1に示す。日立グループは、有料老人ホームの位置づけに合わせて、三つのシステムの構成を考慮して提案している。

## 3 「九電ケアタウン」への納入事例

### 3.1 「九電ケアタウン」の概要

「九電ケアタウン」は介護付有料老人ホームであり、元気な高齢者を入居対象とする「ナイスデイふくま」と、介護が必要な高齢者を入居対象とする「テンダネスふくま」から成る複合施設である。その概要を表2に示す。

表2「九電ケアタウン」の概要

元気な高齢者、介護を必要とする高齢者それぞれに適した設備・サービスを提供する。

運営会社	株式会社キューデン・グッドライフ
所在地	福岡県宗像郡福間町
開設	2002年10月
施設構成	(1)「ナイスデイふくま」 規模：地上9階、一般居室:99戸 対象：元気な高齢者 (2)「テンダネスふくま」 規模：地上2階、介護居室:24戸(24室) 対象：介護が必要な高齢者

注：自治体の要介護認定で要介護2、3をめぐに「テンダネスふくま」へ住み替え

### 3.2 システム開発のコンセプト

施設コンセプト、システム要件、および有料老人ホーム支援システムの開発コンセプトの関係を図2に示す。施設コンセプトは、「ナイスデイふくま」と「テンダネスふくま」の二つに分けている。システム要件を7件に整理し、システム開発コンセプトを以下の二つにまとめた。

- (1) 「情報管理システム」による施設間情報一元管理
  - (2) 「介護支援システム」による介護記録などの管理
- それぞれの概要について以下に述べる。

### 3.3 システムの概要

「九電ケアタウン」のために構築した有料老人ホーム支援システムは、情報管理システムと介護支援システムから成る(41ページの図参照)。

#### (1) 情報管理システム

情報管理システムは、(a) 基幹業務サーバ、(b) 業務端末、(c) 電話課金システム端末、および(d) POS(Point of Sale)レジスタ、ハンディターミナルで構成し、すべての機器はLAN(Local Area Network)で接続している。

「九電ケアタウン」の入居者関連情報は、データベースによって一元管理されている。管理情報には、(a) 入居者基本情報、(b) ケアプラン情報、(c) 介護実績情報、(d) 入居一時金情報、(e) 電話課金情報、(f) レストラン・売店利用情報などがある。

#### (2) 介護支援システム

介護支援システムは、(a) 基幹業務サーバ、(b) ケアコール端末、(c) ケアコール制御機、(d) 各居室のケアコール機器、(e) 電気錠、(f) 侵入監視装置、(g) PBX(構内交換機)・PHS(Personal Handyphone System)などから成る。居室の緊急呼出しボタンや侵入者監視システムからの信号を受けてケアコールを発生し、PHSやケアコール端末に通知する。ケアコール端末は介護実績管理・帳票作成の機能を持ち、介護スタッフの業務支援を行う。

### 3.4 システムの機能と効果

有料老人ホーム支援システムの情報連携概念を図3に示

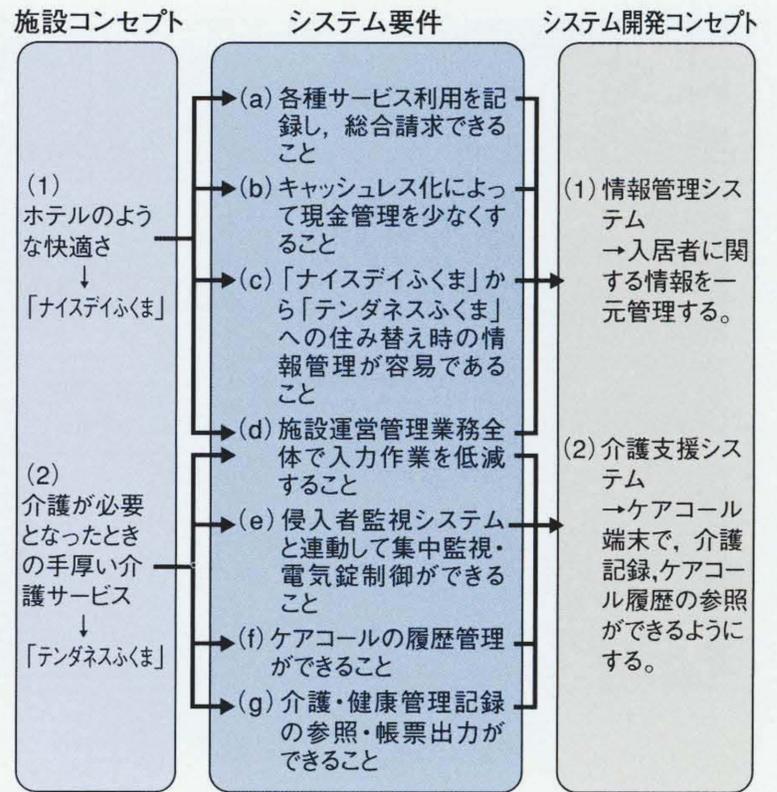


図2 システム開発のコンセプト

施設コンセプトに基づいてシステム要件を抽出し、開発コンセプトを定めた。

す。このシステムによる特に有効な処理について以下に述べる。

#### 3.4.1 情報管理システムによる総合請求処理

毎月の請求時に、月額利用料、レストランや売店の利用料金、電話課金などのさまざまな施設内サービス利用料について総合請求を行う。入居者は、施設内サービス利用料を1通の請求書で確認することができる。

#### 3.4.2 情報管理システムによる住み替え処理

入居者の「ナイスデイふくま」から「テンダネスふくま」への住み替えには、システム上で複雑な移行処理が必要である。特に、入居一時金の償却情報には、(1) 入居一時金額、(2) 入居経過月数、(3) 同居者有無などの項目があり、管理が複雑となっている。

このため、入居一時金の償却情報などの移行処理(システム上の「住み替え」処理)を行うシステムを開発し、スムーズな移行処理を図った。

#### 3.4.3 介護支援システムによる介護支援処理

##### (1) ケアプランと実績対比表示

情報管理システムから取得するケアプラン情報と、ケアコール端末から登録する介護実績の対比表示を行い、ケアプランと実績の違いを明確にしてサービス提供の漏れを防止する。

##### (2) 管理帳票の自動作成

管理帳票作成時間の削減により、介護スタッフの業務効率を向上させる。介護実績や体温・血圧測定値を登録すると、入居者ごとの管理日誌や体温・血圧グラフ、排便・体位変換チェック表を自動作成する。

##### (3) 生活リズムセンサ

入居者が居室内で長時間にわたって動けなくなった場合、ケアコールを自動発生する。このシステムを「ナイスデイふくま」

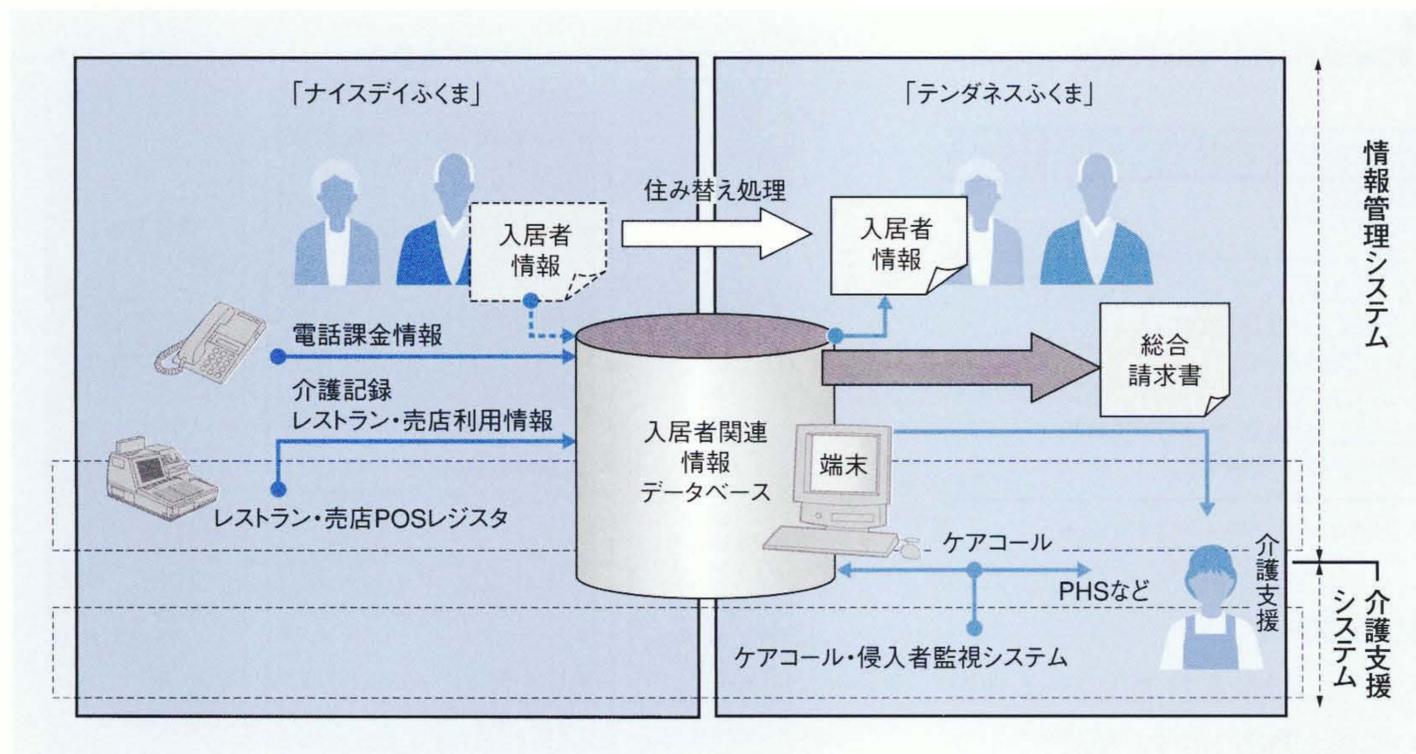


図3 「九電ケアタウン」納め有料老人ホーム支援システムの情報連携の概念

入居者関連情報を一元管理し、総合請求書発行・ホーム住み替え時の処理簡易化と介護情報共有支援を図る。

に導入した。

### 3.4.4 システムのもたらす効果

有料老人ホーム支援システムの機能と効果を表3に示す。情報管理システムによるキャッシュレス化や、入居一時金償却処理のスムーズ化により、事務員は業務の効率化が図れる。介護スタッフは、介護支援システムによってサービス提供の漏れ防止や記録業務の効率向上が図れ、入居者の生活リズムも容易に把握できる。また、介護に関する情報は入居者家族への情報開示にも利用でき、施設のリスク管理につながる。これらの効果により、入居者には安全・安心・快適な環境が提供される。このように、有料老人ホーム支援システムは、事務員、介護スタッフ、入居者、およびその家族のためにさまざま

な効用・快適性を提供する。

## 4 おわりに

ここでは、株式会社キューデン・グッドライフの「九電ケアタウン」を例に、有料老人ホーム支援システムの構築について述べた。

今後、有料老人ホームはさまざまな施設類型、新たなサービスを取り込みながら、さらに普及していくものと予想する。日立グループは、実際の構築例から培ったノウハウを活用しながら、事務員、介護スタッフ、入居者、およびその家族にとっていっそう喜ばれるシステムの開発を進めていく考えである。

終わりに、これらのシステムの構築には、株式会社キューデンおよび株式会社キューデン・グッドライフの関係各位から多大なご指導とご協力をいただいた。ここに深謝する次第である。

### 参考文献など

- 1) 株式会社キューデン・グッドライフ 九電ケアタウンホームページ  
<http://www.kyuden-goodlife.co.jp/main.html>
- 2) 社会福祉・医療事業団WAMNETホームページ  
<http://www.wam.go.jp>
- 3) 全国有料老人ホーム協会ホームページ  
<http://www.yurokyo.or.jp>

表3 有料老人ホーム支援システムの機能と効果

システム開発コンセプトに基づいて機能を決定した。

システム開発コンセプト	機能	効果
情報管理システム →入居者に関する情報をデータベースで一元管理する。	総合請求処理 (POSレジスタ・電話課金連動)	請求効率化とキャッシュレス化
	住み替え処理 ([「ナイスデイふくま」]→[「テンダネスふくま」])	入居者情報・入居一時金償却情報のスムーズな移行
介護支援システム →ケアコール端末で、介護記録、ケアコール履歴が参照できるようにする。	ケアプランと実績対比表示	サービス提供漏れの防止
	管理帳票自動作成	介護スタッフの業務効率向上
	生活リズムセンサ	[「ナイスデイふくま」]入居者の生活リズムをチェック

### 執筆者紹介



江龍 康雄

1992年日立製作所入社、トータルソリューション事業部プロジェクト統括本部 ライフサポートシステム部 所属  
現在、福祉施設に対応するシステムなどのエンジニアリング業務に従事  
E-mail : eryu @ tsji. hitachi. co. jp



永山 勉

1985年株式会社日立エンジニアリングサービス入社、情報・制御システム本部 コンピュータエンジニアリング部 所属  
現在、日立製作所 トータルソリューション事業部で施設介護支援システムの拡販業務に従事  
E-mail : t-nagayama @ tsji. hitachi. co. jp